



## かわいた石を水につけると、もようがはっきりするのはなぜ

### 石全体の色がこくなるため

かわいた石を水につけると、石全体が、かわいていたときよりも、色がこくなり、全体に黒っぽい色になります。そのため、もようの部分と、まわりの部分との色の差が大きくなり、もようがはっきりするのです。

### 水につけると、石の色が黒っぽくなるのは

わたしたちは、光が物にあたって反射し、その反射した光が目に入ることにより、物が見えたと、感じているのです。

色は、反射する光の量が少ないほど、黒っぽく見えます。光を全部反射すると真っ白に見え、光を全部吸収して、反射する光がないと、真っ黒に見えるのです。

ですから、水につけると、石の色が黒っぽくなるというのは、反射する光の強さが、へったということになるのです。

石をよく見ると、表面にはたくさんの凹凸があります。このような面に光があたると、光をよく乱反射します。そのため、石は白っぽく見えます。

ところが、その凹凸のところに水が入ると、凹凸がなくなり、反射する光の強さがへるのです。

その上、水はよく光を通しますが、あまり光を反射しないのです。

ですから、水につけると、石の反射する光の強さがへるため、色が黒っぽくなったように見えるのです。（監修・青木 国夫）

